

令和8年度 第2回淡路市自分ごと化会議 議事概要

開催日時：令和8年8月22日（土）13時30分～16時30分

開催場所：淡路市役所

出席者：委員16名

テーマ：「ごみの減量化」

1. 市長挨拶及び財政について

- ・ 前回に引き続く第2回の開催であり、休日にもかかわらずお集まりいただき感謝する。
- ・ 市政の基本方針は「すべての市民の可能性を高め、すべての市民が輝く淡路市」であり、その実現には市民と共に創る（共創）という理念が不可欠で、自分ごと化会議はその一環である。今回も普段の生活で感じる視点からの生の意見をいただきたい。
- ・ 自身が考える「財政」について話したい。行政の使命は市民福祉の向上、すなわち市民の幸せの総量をいかに最大化するかにある。民間は「幸福の最大化」を目指すのに対し、行政は「不幸の最小化」（不運を不幸にしない）を目指す点にアプローチの違いがある。
- ・ 神野直彦氏の「税という痛みと給付という喜びを、構成員が分かち合い、自己責任と他者依存の中庸である社会の中庸を紡ぎ上げることが、財政の使命である」という言葉が、財政を最も端的に表した言葉だと考えている。税は痛み、給付（行政サービス）は市場領域では提供されない喜び、構成員とは淡路市民のことである。自己責任と他者依存の中庸とは、公明・公正・公平に多様な意見を結びつけ着地点を見出すことであり、その手前で市民からの意見を集め政策に反映させることが共創とも言える。
- ・ 国や県と違い、基礎自治体は市民生活に最も接点の多い行政であり、抱える課題を市民に「自分ごと」として捉えてもらえるかが大きなテーマである。淡路市にお住まいの一人ひとりがこの淡路市のステークホルダーであり、さらなる発展にご理解・ご協力をいただきたい。

2. 前回の振り返り（構想日本）

- ・ 自己紹介で、観光に来ている人たちのポイ捨て、高齢者が集積所まで運ぶのが大変、外国人住民はルールがまだ分からず言葉だけでなく文化・ルールの共有が大切といった話が出た。
- ・ 市の現状について、令和4年度時点では、1人1日当たりのごみの排出量が県内で一番多かったが、翌年度に最下位から脱し、15%の削減目標も1年で達成した。令和11年度から3市合同で新しいごみ処理施設が稼働する予定で、その運営費用の負担割合が令和7～9年度のごみの排出量に応じて決まるので引き続き減量を進めていきたいというのが市の想い。

【意識づけ】

- ・ ここに来ている人たちは意識を高く持っているが、それを全市民に持ってもらうにはどうしたらいいかというところ。個人としては、まずごみ拾いをする、自分の意識を高めていく、分別を徹底するなど。地域としては、ごみ拾いを行う、話し合いの場を作る。行政の役割では、防災無線やテレビなどを使いながら周知していく、ごみ処理にかかる費用をしっかりと伝えていくなど。

【観光・ポイ捨て】

- ・観光客によるごみのポイ捨てが課題で、海洋ごみや砂浜のごみが多いのではという話。
個人としては、自宅周辺をしっかりと掃除する、ポイ捨てがあったら注意をするなど。地域としては、ボランティアグループを作ったの注意喚起や、飲食店・宿泊施設への呼びかけを行えないか。行政の役割では、ごみ箱の設置（まちの中にゴミ箱を置けばポイ捨てがなくなるのでは、他方でゴミ箱を置くと家庭ごみや観光客のごみが持ち込まれて量が増えるのではないかと、いずれにしてもゴミ箱の設置だけが全ての解決策ではないかもしれないが何か考えていかなければいけない）、条例の制定（罰則規定を作ってもいいのではないかと）、ゴミ袋の値上げ、入島税の導入（三市合同で徴収することで、その財源を観光客が出すごみの処理費用に使えるのではないかと）もあった。

【事業系粗大ごみの持ち込み】

- ・淡路市だけが無料（洲本市・南あわじ市は有料）である。持ち込まないよう意識するという意見のほか、有料化を考えていく必要があるのでは。

【リサイクル・リユース】

- ・レジ袋がまだまだ多く、ごみを減らす方法を考えていく必要がある。個人としては、マイバッグを持っていく、無駄なものを買わないという基本的なことからやっていく。地域としては、広報活動や資源ごみの回収ボックスを作る。行政の役割は、啓発とあわせて、ジモティーのような民間のリサイクルサービスを伝えて、使えるものは他の人に使ってもらう仕組みを作る。

【高齢者支援】

- ・集積所まで運ぶのが大変になっているという話に対し、個人・地域として可能な範囲で協力していく、行政の役割としてボランティアを集める仕組みの検討ができないか。
- ・現状、集積所に持っていく地域と、軒先回収の地域があるが、回収場所が多くなるほど経費がかかるため、軒先回収を市は減らしたい。新施設の場所が南あわじ市側になり収集が遠方になることも、集積ポイントを束ねていく理由の一つになっている。

【外国人住民支援】

- ・個人、地域として知っていくことやお互いに理解をするための場を作ること。行政の役割では、多言語サービスやアプリをもっと使いやすく、かつ広報に力を入れるという意見が出た。

3. ごみ減量化についての追加説明（生活環境課）

- ・生活環境課より、前回のアンケートで寄せられた質問や資料要望を踏まえ、以下の説明があった。

【ごみの分別品目・収集体制】

- ・分別品目は、淡路市 22 品目、洲本市 21 品目、南あわじ市 22 品目で、可燃ごみ・新聞紙・段ボールなど、3 市でほぼ共通の内容。大きく異なるのは淡路市の「草木ごみ」で、3 市の中で淡路市だけが定める品目である。
- ・資源ごみの回収施設「エコプラザ」は、淡路市は旧町ごとに市内 5 カ所、洲本市は計 4 カ所、南あわじ市は中央リサイクルセンター 1 カ所に集約している。可燃ごみの収集回数・日数もほぼ横並びで、週 2 回収集が 3 市共通の基本である。

【外国人住民への多言語対応】

- ・「淡路サポートナビ」で英語・中国語・韓国語・ベトナム語に対応している。町内会の役員から相談を受けて看板も作成しており、これまで日本語表記のみだったが、最近は外国語の表記にも対応した看板を準備し、相談ごとに対応している。

【夕陽が丘クリーンセンターの経費内訳（年間約 4.6 億円）】

- ・光熱水費・薬剤・燃料費等：約 1.1 億円
- ・焼却灰処理等の手数料：約 0.2 億円
- ・運転管理・作業委託等の委託料：約 0.9 億円
- ・施設の補修工事等の工事費：約 1.9 億円
- ・原材料費：約 0.1 億円
- ・人件費・使用料等その他：約 0.4 億円

【ごみ分別の収支】

- ・資源ごみとして売却できている品目（新聞紙・雑誌等）の売却収入は約 740 万円。一方、再商品化品目（白色トレイ・プラスチック製品等）は約 820 万円、資源化のために処理費用がかかっており、草木ごみ（枯れ草や剪定枝の堆肥化）は約 4,565 万円の処理手数料がかかっている。

【ポイ捨て関連条例】

- ・正式名称は「ポイ捨てをなくす淡路市美しい島づくり条例」で、罰則はなく勧告・命令にとどまる。平成 11 年に制定され、平成 17 年の合併後は各市で引き続き制定している。

【令和 11 年度新処理施設稼働後の運営経費試算】

- ・現時点の試算で合計約 9.3 億円になる。内訳は、収集運搬が現状比 2.2 億円増の約 5.2 億円、中間処理（エコプラザ事業等）が 1 億円増の約 2.1 億円、新可燃ごみ処理事業が現行の夕陽が丘クリーンセンター（約 4.6 億円）から 3 市で按分することにより 2.9 億円減の約 1.7 億円、管理費等が約 0.3 億円である。供用開始時点では物価変動等により増える可能性が高いと考えている。

4. 議論

【初参加の委員の自己紹介】

- ・（委員）ずっと淡路市在住。実家のごみを出せない状況になっていた。町内会に入会しないとごみが出せない、入りたいと言っても入れないという方がいる。エコプラザは無料で出させてもらえて助かっているが、淡路市民でない方もそこで出しており、負担は淡路市が抱え込んでいると思う。焼却施設では身分証を提示するのに、エコプラザは市民でない方との区別をしていないのだろうか。町内会で一つにごみをまとめるものだと思っていたが、集積所や軒先など、出し方が統一されていないので、統一してほしい。
- ・（委員）隣で民泊をしている家があり、業者がごみの収集に来ているが、缶とプラスチックを業者用の水色の袋に一緒に入れてトラックに積んでいっている。分別したプラスチックなどはごちゃごちゃに入れて、可燃ごみで出していくと思う。何軒回ってきているか分からないが、大きなトラックに山盛り入れているのを見るたびに、これがどうなるのか気になる。

- ・（コーディネーター）民泊は事業系ごみとして別途業者と契約しているケースが多く、今回の経費に入っている分とは別に、民泊の事業者がお金を払って収集運搬してもらっている。事業系のごみは空き缶やペットボトルをまとめて持っていくことも多いが、処分するときには完全に分別しているのが基本。

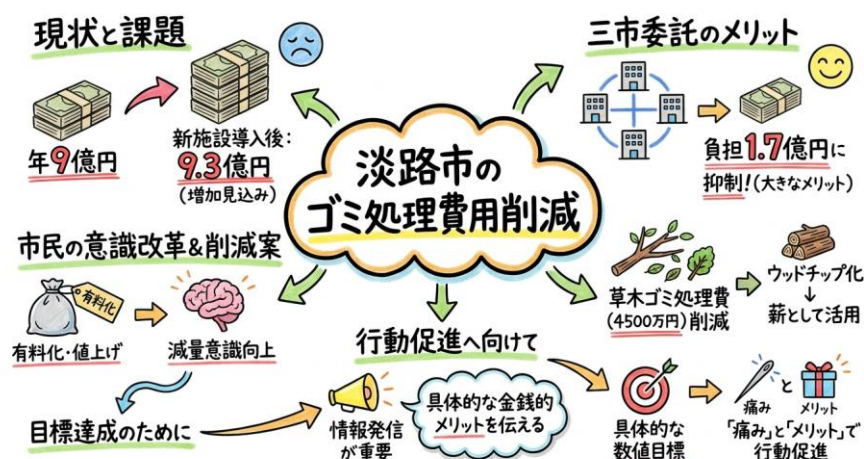
【ごみ処理費用と減量化対策】

- ・（コーディネーター）令和 11 年度、新しい処理施設になった時にどれくらいかかるかを試算したところ 9.3 億円という数字が出ている。特に上がるのは収集運搬で、遠くなる分 5.2 億円ぐらいになりそうである。逆に中間処理にかかる委託経費は、今までの淡路市一市での委託から三市での委託になることで、1.7 億円という形で少し抑制される。仮にごみの量が減った場合には 9.3 億円は減少することになる。
- ・（委員）市民は値上げに敏感だと思うので、440 円というごみ袋の価格を上げる案が出ることで市民の意識づけになる、レジ袋が有料化されて大きく響いたのと同じで、ぜひごみ袋の値上げをして市民に意識を持ってもらいたい。
- ・（委員）物価高で切り詰めている中での 440 円は厳しく感じる、祖父母も同居しており量も増えるので安い方がありがたい。
- ・（委員）値上げ自体に特に意見はないが、自費でごみ袋を買って配布しており持ち出しが増えてるので、多少でも各町内会に淡路市から袋を提供してもらえれば、値上げにも賛成できる。
- ・（コーディネーター）ごみ袋の現在価格（10 枚 440 円）は全国平均とほぼ同水準であり、有料化している市町村の相場は 45～50 円/枚程度。県内では有料化していない自治体はごく数か所であり、県内で 1 枚当たり最も高いのは豊岡市の 52 円、全国では北海道で 200 円という自治体もある。
- ・（委員）資源ごみの売却料が 740 万円の収入がある一方、資源ごみの処理手数料や草木ごみの処理手数料でマイナスになっており、手間をかけている割にはこの草木ごみの手数料が非常に大きいのではないかと。ごみ袋代など小手先の細かい対策より、このごみ処理費用そのものを減らせないか。例えば寒冷地ではダムに溜まった木材を無料で配ると薪ストーブに使うため取りに来る、太い木も自分でチェーンソーを持ってきてトレーラーに積んで持ち帰れば無料にするといった形にすれば、いくらか減らせるのではないかと。
- ・（生活環境課）夕陽が丘クリーンセンターの焼却基準をそのまま堆肥化の処理基準にしているため対象外としているが、堆肥化以外に安く処理できる方法があれば今後検討したい。
- ・（委員）ごみの減量化をどのような動機で協力するかを考えると、ごみ袋の有料化というデメリットか、かかっていたごみ処理費用が市民に別のプラスをもたらすかのどちらかでしか動かない。将来的にごみ袋代が安くなるなど自分に対するメリットをセットで考えられると良い。
- ・（委員）前回参加して、自分なりに分別したところ量が 7 割程度まで減った。それだけ分別が大事だということをもっと市民に教育してほしい。プラごみで捨てる際に中に食べ物が残っていると水で洗う手間がものすごくかかるが、ごみを減らして再生できるものは再生しようという考えのもとに分別という発想が出てくるので、その点での教育も必要ではないかと。

- ・（生活環境課）手間がかかることは確かだが、地域のサロン等でごみの分別説明をする中で、すでにプラごみをきちんと分けている方からは、ごみ袋が小さくなり家計の面でごみ袋代が安くなったという声をよく聞く。燃やさずに資源化しようという趣旨であり、プラごみは燃やさずに回収し固形燃料としてボイラーの燃料等に使っている。
- ・（コーディネーター）今まで燃えるごみに入れて燃やすのと、プラスチックに分別するのとでは、税金のかかり方は安くなるのか。
- ・（生活環境課）再商品化品目で処理量が820万円かかっている。さまざまな品目の中でプラスチックが最も費用が高い。
- ・（コーディネーター）排出量を1人当たり減らして負担金を安くしようというのが目的だった前回の話を踏まえると、税金の有効活用という観点では、分別したほうがお金がかかってしまいかねない。そのあたりの試算ができると良い。
- ・（生活環境課）淡路市全体で年間1000トンのごみが減らせれば、パッカー車1台分の収集運搬費や人件費約4000万円が少なくできる。
- ・（委員）仮に1000トン分を資源ごみとして集めた場合、どちらが安いのかをはっきりさせて、圧倒的に資源にした方が安ければ、どんなに面倒でもみんながごみ袋1個でも資源ごみに振り分ける方向に舵を切れるのではないか。
- ・（生活環境課）分別によって処理費用が増となっている部分もあるが、焼却量を減らせているので、増は増でもありがたいことだと考えている。試算はできる範囲で考えたい。

【減量化のためにできること①：意識づけ】

- ・（委員）ごみの減量化を実現させるためには、行動をどう促進させていくかと、数字の見せ方が重要である。行動促進では、人は痛みかメリットのどちらかを感じることで行動に移す。両方のアプローチが大事だと思う。また、数字の見せ方では、大きい数字だとイメージがつかず、千トンと言われても実感が湧かない。自分ごとに置き換えられる数字として示すことが大事で、市として何%、いくら削減したいという目標が明確であること、それを一人当たりの量など、目標を小さく具体的に示すほど自分ごとに落とし込んでいける。



※AI を活用したグラフィックレコード生成(『Recogra』)を活用し作成

【減量化のためにできること②：動機付け】

- ・（委員）ごみ袋が、安くなったからといってごみ袋に沢山入れるかということそれは想像がつかないが、逆に高くしたら、もったいないとじてみんな量を減らすのではないかなと思う。自分のアルバイト先では、おしぼりの月の提供量が決められていて無駄遣いすると言われており、これをごみ袋に当てはめると、一家庭にごみ袋を 10 枚配布し、その範囲でやりくりし、余れば来月に繰り越し、10 枚を超えたら追加で払う仕組みにすれば、自分ならその 10 枚でやりくりしようと思うし、無駄な出費になるという心理が働くのではないかな。
- ・（高校生）コンビニでアルバイトをしているが、お盆などでごみが非常に増える。レジ袋の中に空き缶なども一緒に入れて捨てられていたり、紙おむつが入っていたりして、分別する際に一緒に入れないでほしいと感じる。ごみ袋の値段を上げれば捨てる量も減るのではないかな。海外ではペットボトルをリサイクルするとコインが返ってくる制度もあるが、市内のスーパーとの連携や市に持ってくることで商品券を貰えるなどお得感があるといい。
- ・（委員）団体や地区で段ボールなどを集めてエコプラザに持っていくと、ごみ袋を配布する制度が以前あったが、今も続いているのか、また、継続して活用されているのか気になる。
- ・（生活環境課）「集団回収事業」として、町内会や地区、PTA・保護者会等の単位で古紙・古着等を集め月 1 回搬入すると、キロ数に応じてごみ袋を配布する事業が現在も継続しており、参加団体は継続的に参加していただいている。町内会の会館等で月 1 回程度、瓶も月 1 回程度の頻度で持ち込む「拠点回収」という仕組みもあり、これは集団回収とは別で、市が回収している。
- ・（委員）チラシを見かける機会がない。集団回収でごみ袋が返ってくることを知らない人も多いので、若いうちから意識してもらうために学校で配るなどしたらよいのではないかな。
- ・（高校生）アルバイト先で観光客や外国人によるポイ捨てが問題になっており、ストローやコップのふた、スプーンなどのテイクアウト用品を必要な人だけに渡すスタイルに変え、持ち帰りを案内するようにしたところ、ごみが減ることでごみ袋の使用量や収集処理費用も減り、お店や地域の負担軽減にもつながるのではないかなと感じた。前回の話や自分自身が感じたことをアルバイト先で提案したところ、実際に改善もしてもらえた。
- ・（委員）ペットボトルの蓋を集めると子どものワクチンに変わるという活動を長年続けていたが、去年ごろから回収されなくなった。そうした活動は今後もうやらないのか。行動が次につながる取り組みだと思う。
- ・（委員）リサイクル・リユース・リデュースの中では、リデュースが一番大事だと思う日本はどう捨てるかを考えることが多い。どう減らすかをテーマに動いた方がよいと思う。自分の飲食店では野菜くずやフードロス全てコンポストで堆肥（肥料）にし、植木にも使っており、これがもっと広まれば減量につながるのではないかな。
- ・（委員）ごみの減量とごみの分別が自分の中でイコールになっていなかった、資源ごみと言われても全部一緒くたに考えている人が多いと思う。そこを理解してもらえれば分別も増えていくのではないかな。また、近所の介護施設で夏休みに子どもたちが交流する取り組みがある。高齢者は子どもの言うことにはよく耳を傾けてくれるので、一緒に取り組む形にすれば浸透しやすいのでは。

【教育・次世代への啓発】

- ・（委員）教育の面で市が持つ資源は大きく、保育園・小中学校が市立なので、幼稚園児にはプラごみを分けるようなゲーム感覚の教育を通じて、分けることが当たり前という環境を作れる。小中学校では参観日などを活用して年1時間でも親子で学ぶ時間や運動会の場を利用すれば多世代と一緒に学ぶ機会にできるのではないか。
- ・（高校生）淡路市が1人当たりのごみの量が多いことを友達に話しても知らない人が多かったので、講演会など意識づけの場があればよい。中学校まではそうした話を聞いた記憶がなく、高校で初めて知った。
- ・（高校生）小中学校ではごみに関する授業や取組は一切なかったが、高校ではグループに分かれて授業に取り組んだ経験があり、自分自身、高校になってからごみの分別やごみへの意識を持つようになったので、小さいころからごみについて意識を持つことがとても大切だと感じた。
- ・（高校生）小学校4年生の時に校外学習で夕陽が丘クリーンセンターを見学し、ごみの現状や燃やし方を学んで新聞にまとめた経験をしたのでそうした機会をもっと増やしてほしい、高校ではテスト後に午前中授業で時間が空くのでそうした時に講演会を開いてもよいのではないか。
- ・（教育長）小学校から学びをしているし校外学習も行っているが、中学校・高校と学年が上がるにつれて環境学習の大切さが薄れてくる。今後の課題と捉えている。

【民間との連携・情報発信の工夫】

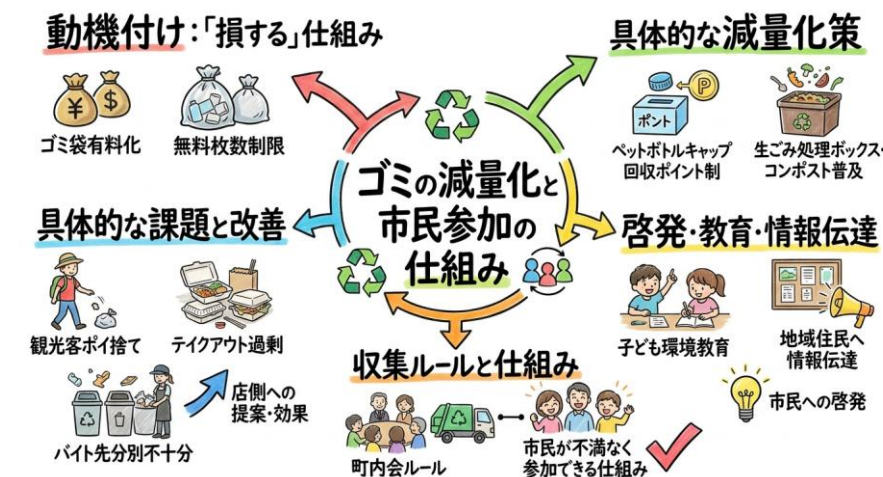
- ・（コーディネーター）他自治体の事例として、群馬県のある市では買い物かごの下にチラシを入れ、1人1日当たり15g（ピーマン1個分）といった自分ごと化しやすい削減目標を示しながらスーパーと行政がタイアップしていたり、マイナンバーカードを活用して高齢者の健康体操参加、子どもの見守りサービス利用等にポイントを付与し、自治会ごとの獲得ポイントを競うゲーム感覚の仕組みを導入している例がある。

【ごみ出しルールと地域コミュニティの課題】

- ・（委員）先ほどの話でいえば罰となるが、粗大ごみの有料化にはかなり賛成。
- ・（コーディネーター）東京では、品目ごとの料金をアプリやホームページで確認し、コンビニで事前にシールを購入してネット予約すれば収集日時が決まる方式や、すべてがネット上で完結する仕組みがある。
- ・（委員）例えば、肥料が欲しい人とごみを出したい人が繋がる仕組みが考えられないか。例えば町内会管理でコンポストを設置するなどはどうか。
- ・（委員）町内会に入っていないとごみが出せないという話を初めて聞いた。そのような実態が本当にあるのか、ごみ出しの証明書を求められるようなことがあるのか。
- ・（生活環境課）集約収集（ごみステーションに出す）と軒先収集（玄関先に置く）の両方が地域によって混在している。ごみステーションは町内会が設置・管理しているケースが多く、会員以外の利用を認めない町内会と、ルールを守れば認める町内会があり、運用は町内会によって異なる。

る。絶対に使ってはいけないというわけではなく、集積場としての利用は認められるとした判例もあり、町内会によって運用が分かれているのが実態である。市に個別の相談があった場合はケースごとに検討し、ごみを出せるよう調整している。

- ・（コーディネーター）多くの場合、町内会に入っていないなくてもごみステーションは使えるが、実際にそうでない事例もある。ステーションの所有権は町内会にあるが、収集自体は市が税金で行っており収集しないことはない。自治会・町内会は市の下部組織ではなく地域住民が自主的に作る組織のため、行政に強制権はない。去年度の夏祭りをテーマにした回でも、新しく移住してきた人が地域に入りたくても入れないという課題が出ており、これはごみというテーマに限らず地域コミュニティ全体の課題として今後も向き合っていく必要がある。



※AI を活用したグラフィックレコード生成(『Recogra』)を活用し作成

【まとめ】

- ・前半でゴミの分別の話、その後、お金の話になった。令和 11 年度にごみ処理施設が一緒になるにあたって、この後コストがいかにか落とせるか、それだけでなく、CO2 削減や資源の有効活用、そういう観点においてもごみを減らさなければいけない。減らすにはどうしたら良いかという中で、意識づけと自分にとってリアリティのあるような数字の設定の仕方が必要じゃないか。そして、北風と太陽ではないが、「やらなかったら、ちょっと不利益がある。やったら、こんなに得があるよ」というような考え方ができないかという意見があった。
- ・子どもたちにどう伝えていくか。小中学校では授業で環境学習を行っている。体験学習をしているが、今後もどのようにして継続していくか。高校になってからでも、続けられるとようにすることを考える必要があるのではないかな。加えて、今、サロンの場で行政が説明することもあるが、学校などを使いながら、市役所側からも出向いていけると良い。さらに、その時には、分別とは何かとか、なぜ減量化が必要なのかという少し理念的なところも伝えることによって必要性を伝えられるのではないかな。
- ・民間との連携では、テイクアウトの用品を必要以上に使わないようにする。これは店側にとってもインセンティブになる。さらに、残り物のコンポスト化を増やしていく。それによって、大き

[illegible]

～ホワイトボード画像～

5. 次回予告・事務連絡

- ・ 次回はナビゲーターとして専門家を招き問題提起をしてもらう。総合地球環境学研究所副所長で、自治体とタイアップしてごみ袋の成分分析を行い、ごみの量や質から地域の経済状況や文化を研究している浅利美鈴氏の話聞いた上で議論を進めていく。
- ・ 次回（第3回）は、令和8年9月27日（日）13時30分から、同会場にて開催する。